



チエリツプ
四季だより

2000. 秋号
Vol.16

永田萌トークショーより

〜安念鉄夫砺波市長と対談〜

去る、八月四日（金）から二十日（日）までの十七日間チュリップ四季彩館ホールにおいて、絵本作家、永田萌さんの原画を集めた特別企画展「永田萌の世界展〜妖精たちの花風景〜」を開催しました。八月四日の開会式の後、約四十分にわたりお話を聞きした「永田萌トークショー」の様子を一部ご紹介します。



▲左から永田萌さん、安念鉄夫砺波市長



▲永田萌さん

安念市長／淡路花博のキャラクターマーク「ユメハッチ」はどのようにして出来上がったのですか？

永田氏／現在淡路花博が行われている会場用地は、関西国際空港建設の砂利採取のあと阪神淡路大震災によつて島の斜面が大きくえぐられ、しかも植物が育つ層の良い土が全部けずり採られてしまい、全く生命のない骨だけのような大地となっていました。その教訓を経て、兵庫県は、淡路花博のコンセプトに大きく「共生」を掲げられました。それは、今回の博覧会を従来型の楽しさだけを追求する会場ではなく、人間と自然とが二十一世紀に向かつていかにより良い共生関係を築けるか、いったん破壊された自然を、いかに復活させるかを問うものでした。

キャラクターマークは、スコップや花をテーマにしたものなどいくつか候補を作ったのですが、予想していたとおり「ユメハッチ」が選ばれました。なぜなら、「ユメハッチ」

はミツバチをモチーフにしているのですが、ミツバチは蜜を吸ったお札に花粉をつけて飛び立ち、受粉のお手伝いをするという花と理想の共生関係を結んでいて、花博の Mascot にぴったりだったからです。

安念市長／淡路花博を記念して出版された絵本「ユカの花ものがたり」についてお話を聞きたいのですが。

永田氏／これは、動物学者の河合雅雄先生が、妖精のユカちゃんを主人公に書いてくださったお話です。ユカちゃんは世界中を旅しながら、昆虫と花、動物と植物の関係を学んで行くのですが、この物語の後半で、インド洋のモリシヤス島が舞台となります。その島には、タンバラコクという名の高さ十五メートル位までなる大木の森が広がっています。ところが、その大木はすべてが樹齢三百年以上のものばかりだそうなんです。つまり、それ以降苗木が芽を出していないということになります。それはなぜかと調べると、四百年位前から大航海時代が始まり、オランダからたくさんの商船が貿易のためあるいは植民地開拓のために港を出ました。ちょうど途中でモリシヤス島に寄つて、水や食料の補給をしました。当時タンバラコクの森の中にはドードー鳥と呼ばれるダチョウのような、かわいらしくユーモラスな姿をした鳥がいました。その鳥は非常に性格がおとなしく、人なつこいため、人間を珍しがって側に寄つて来ます。オランダ人はその様子がおもしろく、その肉を食べると大変おいしかったため、たくさん捕まえてしまったのです。また、その時持ち込まれた、それまでいなかった小動物が

ひな鳥を食べたために生態系がくずれ、ドードー鳥は絶滅してしまいました。

そこでなぜドードー鳥の絶滅がタンバラコクに関係があるかと言いますと、タンバラコクの大きな実はドードー鳥の好物で、その実をまるのまま飲み込みます。大部分は消化しますが、種はドードー鳥の丈夫な胃袋の中でもまれ、表皮に傷がつき、遠くへ運ばれて排泄物と一緒に出されます。消化の際できた傷から芽が出るので、ドードー鳥が絶滅すると、種は地上に落ちたままでは発芽しないのです。ですから、これからタンバラコクの巨大な森は徐々に木が枯れるにつれて減少し、新しいタンバラコクの若い木は育たずに地球から姿を消してしまうのです。これは、人間が行った破壊の典型的な悪い例です。でも今、植物学者たちによつて、なんとかタンバラコクの芽が出るように研究がなされていま



▲「ユカの花ものがたり」より

すから、きつとまた、若い苗木が育ったというニュースが世界中を駆け巡る日も来ると信じています。

これが、物語の中で一番大きな山場となつていきます。花の妖精であるユカちゃんはその話を聞き絶望します。妖精というのは自然界と人間界をつなぐ存在ですから、人間のために美しい花を育てたりしてもしょうがないと思うのです。そこにそのハッチがやってきて、「そんなことはないよ」と連れて行ってくれたのが花博の会場なのです。そこで、人間が作り出した美しい新しい自然の風景というものを見せてくれます。

砺波でも、春になると人の手が作り出した美しい花の風景が、色々などころで見られると思います。これは、人間が行う美しい行為の一つです。ですから、人間の手は、破壊もしますが美しい自然も作りあげます。これが、この本の最後の結末、テーマとなつてゐるのです。

安念市長／我々が小さいときには多く見られた蛍やメダカも今ではほとんど見られなくなったのは、やはり環境が悪化したということです。人間一人一人が自然社会を守ろうとすることが大事なことであると思います。

最後にぜひ絵を志す子供達にメッセージをお伝えしたいと思います。

永田氏／幼いころの環境というものが、私は絵を書く心を育てると思つています。子供達の心の中には誰でも絵を書くことが好きな心があるのです。それが少しずつなぜ変わるのかというと、これはやつ

ぱり大人のせいだと私は思っています。誉めてあげることはもちろん良いのですが、逆に絵に点数をつけたり、「下手ね」とか、「もう少しこうすれば上手になるのに」と言われると、だんだん絵を書くことが楽しくなくなつてくるのです。子供の絵に誉めるところがつもないということは絶対にないのです。私も時々子供達の絵の審査員をしますが、だいたい、「あつ、負けたなあ」と思います。ですから、大人たちは、子供達の絵を書きたいという心を応援することが大切だと思います。

もう一つ、絵を描きたいという夢を持っている人たちから、よく、「どうやったら私のような仕事をする事ができるか」というような質問を受けます。その時に必ず答えるのですが、それは、絵の学校に行くことでも、たくさん本を読むことでも、先生について特別指示を受けて習うことといったことでは全然ないのです。絵を描くために一番大切なことは、何を描きたいかということ、その描きたい気持ちがかみ上げること、ということが一番大切なことです。

ですから、〇〇大学を出て、何年かたつて絵描きになるというふうには、一般の職業のようにあらかじめ計画をたてられるものではないと思います。それよりも、例えば、結婚してお母さんになつて子供達を大きくして、お孫さんのために、「ああ、絵本を描いてみたいなあ。」と、思つても決して遅くはありません。それは、描きたい気持ちがい長い歳月を経て蓄えられ、込み上げてきたということですから。

私は中学生や高校生の時に先を急いで、例えば二十歳で本が一冊できていないと絵本作家としては生計がなりたたないなんてあらかじめ考えるのは、そのこと自体が、そもそも出発から私は間違つてゐるといつも言うのです。絵は、生計を立てるためのものではありません。生計を立てることだけを考えるのなら絵描きにはならないほうがいいと、私は思います。

ただ、絵を描くことは人生の大きな楽しみであり喜びですから、絵を描く心だけは捨てずに大切に持つていて欲しいと思います。本当に絵を描く仕事をしたいと思われらるなら、私は、何を描きたいか、何を描いて人に何を伝えたいのか、そのことがしっかりと定まることが一番大切な条件だと思います。

その次に、「たくさん人に会つて、恋をたくさんしなさい」という風に、答えます。人を想う心、人を愛する心が、やはりやさしい、美しい絵を描く上で不可欠のものだと私は信じています。



▲「夢の配達人」

私も二十代後半から本気で絵を描きはじめました。いくつになつても描きたい時がスタートラインだと思ひます。ぜひ、ここ、美しい砺波から、チューリップを見てたくさんの方々の若い絵本作家が育つように私も願つております。

略歴

ながた もえ

一九四九年

兵庫県加西市に生まれる。

一九七五年

京都の出版社、デザイン会社などの会社勤務を経て独立、フリーのイラストレーターとなる。

一九八二年

郵政省発行「ふみの日」記念切手イラスト担当。以後八三、八四、八八、九〇、九一年と担当。

一九九六年

東京都赤羽羽根募金メインイラスト制作。

一九九七年

淡路花博（ジャパンフローラ二〇〇〇）キャラクターマーク制作。

一九九九年

郵政省発行「わたしの愛唱歌シリーズ」記念切手イラスト制作。

二〇〇〇年

神戸北野美術館にて常設展示開始。

淡路花博の公式記念メダル及び記念切手の意匠担当。

出版物は画集、絵本、エッセイ集など百冊余。近著に『ユカの花ものがたり』（小学館）、『あのひこに花を』（淡交社）、『世界のひまわり姫へ』（ポプラ社）がある。

京都市在住。中京区にギャラリー「妖精村」を主宰する。

世界の ミレニアム イベント

今年「ミレニアム」に行われたチューリップのイベントを、オランダの園芸雑誌「cnd MARKT Visie」が紹介します。

十一万五千人の読者とIBCによる ミレニアム活動が成功を収める

毎年秋に行われるIBC（オランダ国際球根協会）による「Plant now（今が植え時！）」活動が昨年は「ミレニアム」をテーマに行われた。過去、現在、未来を通して球根植物が個性や喜び、幸せ、愛、そして自由を現す象徴として用いられることを願い、この世紀の変わり目にIBCは特別なイベントを開催した。

昨年九月、世界各地で「ミレニアム」をテーマに植栽活動が行われた。その花壇は、黄色のチューリップ、イエロー・プレゼント、で子供を形作り、周りを紺色のムスカリで縁取ることによって、子供達が手と手をつないで円周を取り巻くような形になっている。これは、市民参加の団結を象徴しているのである。男の子と女の子が交互になっており、それぞれの面積は四平方メートルである。この花壇で子供の図柄を選んだのは球根植物の将来性を意識している。この植栽活動は農林水産省ゲイク・ファベル事務次官の号令によりキューケンホフから始まった。

〈朗報届〉

植栽活動はキューケンホフを皮切りにヨーロッパの集客地において次々に行われた。ベルリンの平和祈念堂、パリの花公園、ブリュッセルのアト

ミウム、コペンハーゲンのチボリ公園、ストックホルムのローゼンダール公園、ワルシャワのラジエンスキ公園、モスクワのクレムリンガーデン、ロンドンのグリーンウィッチセンターなどである。

また、同じく「ミレニアム」の植栽に連携して、アメリカではシカゴのヒラリー・クリントンパークに、そしてカナダのオタワでは、チューリップフェスティバルが行われるジュリアナパークに子供の形をした花壇が出現した。

IBCの地域担当ウェンディ・ヴァイジューマ氏によると「主要輸出国十一カ国で自発的な共同作業が行われたが、球根植物は人気が高く、花の時期には春らしさと喜びを与えると称えられた。おそらく、十一万人以上の人々が携わっており、我々は大変満足している。この活動は少ない予算の中でマスメディアの関心



▲淡路花博「オランダ庭園」

を呼び、さらには球根植物の輸出における利益を確信させるものでなければならなかったのだ、とても幸運であった。」植栽活動は大成功であったのである。

ドイツでは「世界の子供の日」のイベントの一環として植栽が行われ、大成功を収めた。「世界の子供の日」の中心地、ボンでは、次の季節には

子供を形どったダリアの花壇になる予定である。

〈西ヨーロッパで成功〉

各地で行われた植栽活動は、去年の植栽の時には記者会見も行われた。合計七十三回にわたる記事が十一万五千人もの読者に届けられたのである。フランスでの大反響に続き、ポーラ

ンド、ロシアでも報道陣の関心が大変強く、植栽セレモニーが多くの人々にニュースとして伝えられた。

〈終わりに〉

結局、今回IBCはミレニアムのイベントを通して、去年の秋「Plant now」活動を浸透させようとしたと考えられるだろう。「これは良い

活動だった。」とウェンディ・ヴェイジューマ氏は振り返る。「この活動には二回成果があった。まず、植えることによって、そして、花が咲くことによって球根や切花の利用の可能性を伝えられたからである、新聞記者たちはもう植栽にあまり興味がないようだが、今回の活動が人々の心を動かしたことは間違いない。」

オランダ、ウィリアムアレクサンダー王子、日本で花咲く、チューリップカタログを来訪

今年三月十八日から九月十七日までの期間、淡路島で淡路花博（ジヤパンフローラ2000）が開催された。この花博の会場は九十六ヘクタールの広さを持ち、海外からオランダを含む六十四カ国が参加した。

日本市場の関心を考慮してIBC（オランダ国際球根協会）は淡路花博の国際庭園に、チューリップカタログの要素を持たせた。ほぼ、四月中をとおして二百五十平方メートルのオランダ風庭園に

は百品種のチューリップが咲き誇り、色とりどりでとても美しい眺めは、最高の写真スポットとなった。

〈来訪者多数〉

日蘭交流四百周年に関する祝賀の一環として、蘭日交流四百周年実行委員会より日時計が贈呈された。日時計はオランダ庭園に設置され、四月末にウィリアム・アレクサンダー王子が来訪された。IBCの花博の調整担当であるジョス・エイキング氏が随行し、王子は日蘭交流四百周年の祝賀セレモニーに出席した。

〈ダリアの花壇〉

チューリップを掘り起こした後、庭園には今度はダリアとベコニアを植え込み、再びカタログ庭園となった。両方とも検疫処置を受けるので、三十二品種のダリアと六品種のベコニアは慎重に選抜された。ダリアの品種選抜に関してはギャラリー社とダフリノバ社がCNBダリアチームに協力している。一方、球根ベコニアはA.F. Kolkman&Zn社から出されており、球根は日本で植え込み、促成栽培された。このように、日本で花壇に植えるため、より厳しい検査を受けた。この方法で、IBCは日本国民とCNBに、オランダで幅広い品種のダリアとベコニアの品質の良さを示したのである。

（参考資料／cnb MARKET Visie

六月二十九日号）

海外 News

—オランダの園芸雑誌「cnb MARKT Visie」も— 『フィンランドにおける変わった形のチューリップ販売は今なおまさに独占的』

フィンランドでは珍しい色や形のチューリップの取引は少ない。特徴のあるチューリップに力を注ぐとするフィンランド人はスウェーデン人に比べるとずっと少ないのである。

「昔からある品種だけでは満足はいく収入を得ることはできない。」

と、ロールヴィクストロム氏は言う。転換期が近づいているのだろうか。スウェーデン人のペリエリックハルグレン氏はフィンランド人でも数少ない独占販売分野の専門栽培家の一人であり、かなりの収入があらとみられている。

首都、ヘルシンキでは三月半ばでも外はまだ冬である。公園や建物の屋根は雪に覆われ、冬用のコートや毛皮の帽子をかぶった人々が街を行き来する。ペリエリックハルグレン氏とその息子のモセ、ガールフレンドのカリーナは、彼らが扱うすべての花取引をフィンランドの大都市に限定している。フィンランドの中で選ばれた数少ないスウェーデン人である、ハルグレン家にとつて、冬季のチューリップ栽培が主要な商品である。彼らの仕事場はヘルシンキ周辺に固定され、当初は野菜も栽培していたが、一九七五年以降完全に専門化された。

現在ハルグレン一家は、年間でチューリップ四十万本、ヒヤシンス五万本、アマリリス約八千本を栽培している。また、鉢植えのスイセンも販売しているが、それ自身良い収入を得ている。

〈サービスこそ力〉

ハルグレンは六十〜七十種類のチューリップを栽培している。彼のお店でよく知られている主要品種に次いで人目を引くのは、しばしば珍しい新品種である。レンブラント、パロット咲きといった系統のものがある。「パロット咲きは毎年売れ行きがいい。」と息子のモセは言う。ハルグレンはポット植えチューリップにも積極的であり、また、毎年新品種を作り出そうともしている。

例えば、今年の新品種は、デニス、スノーレディ、ホワイトキング、エルミタージュ、シャトー、ローズシユプリム、アリアンス、トレシックである。モセは全部で五十店の取引先の花屋と固定客を持っている。さらに、将来的に見込みのある卸売業者にはサービスもする。

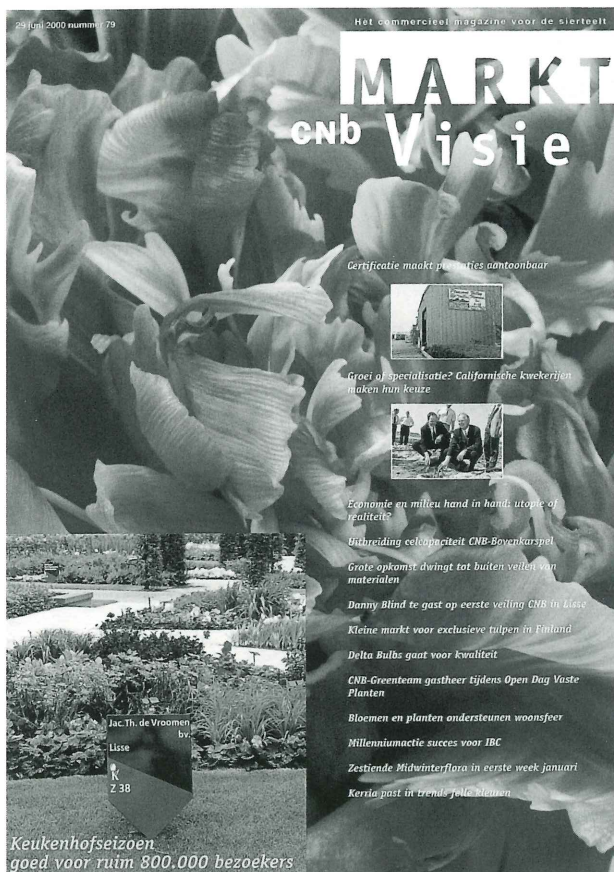
お得意先には優先的に取り置きもする。珍しい独自の品種も重要であるが、サービス力こそ力である、とモセは言う。「私たちは常に新鮮な花々を提供することができる。今日摘んだものは明日、客に届け、もしなければ次の日の午前に摘んで、その日中に配達する。」

チューリップはミックス二十本のパックの

七十パーセント、ミックス十本のパックの内三十パーセントが独自のネーミングで販売されている。色についても需要が考慮されている。ロシアからのフィンランド独立記念日、十二月六日には白いチューリップが、クリスマスには赤が人気である。

フィンランド人のチューリップ消費者は、スウェーデン人ほど新しいものに興味を抱いていない、と彼は言う。「スウェーデン人は好んで新しい色を取り入れるのだが。」

価格は毎日変動する。今シーズン、クリスマスのオリジナル品種に彼はパック（二十本入り）三マルク（約百五十円）の良心的な値を付けた。一月の第二週には「パック二・五マルク（約百二十五円）であったが、その後、価格は二・二五マルク（約百十円）

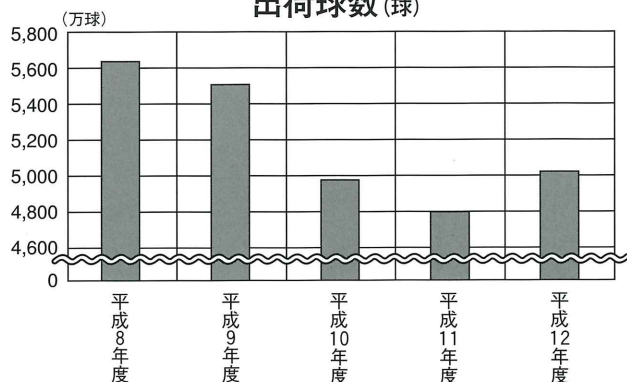


▲2000.6.29 No.79より

富山県における チューリップの年次別出荷状況

年次	出荷球数(球)	面積(a)	反収(球)
平成8年度	56,273,680	23,675	23,769
平成9年度	55,126,000	23,372	23,586
平成10年度	49,775,100	23,431	21,243
平成11年度	48,011,750	22,750	21,104
平成12年度	50,062,500	21,901	22,859

出荷球数(球)



に安定した。これらのオリジナルチューリップは消費者の手元に届くころには六、七マルク(約三百円～三百五十円)になる。このようにして、卸値の平均値を超え、スーパーマーケットにふさわしい値段となる。「こうやって私達はすぐに億万長者になれるだろう!」と、モセは笑みを浮かべる。ハルグレンたちは十二月半ばから三月十五日までチューリップを扱う。三月からは夏草花に興味が移行されるので彼らはそんなに早い時期にチューリップの販売を終える。そのせいで取引先を失うこともない。「私達が作るチューリップは品質が良いので、次の年には必ず客が戻ってくる。私達が供給をやめるとすぐにチューリップの取り扱いをやめる店もある。」三月

中旬にバラの値段が下がることによって、チューリップの値段も低下するのである。

〈小規模な取引〉

これに対して全く異なる立場として、ロールヴィクトロムはヘルシンキ郊外に温室を所有している。ロールは十二月半ばから復活祭(三月二十一日以降、満月後の最初の日曜日)までの間、同じ卸業者へ、または小売店へ提供するため、二百万本のチューリップを促成栽培している。栽培している六十品種の中からミックスで十本のパックはオリジナルである。彼はこれまで値段が適当ではないと感じている。「チューリップの値段は前年同様オランダよりもここ、フィンランドの方が安い。」卸売価格は平均して「パック・四〇マルク(約七十円)前後を変動し、店頭では二六〇マルク(約八十円)で販売される。オリジナルのチューリップでもわかることはほとんどない、と彼は感じている。「永く親しまれている品種は少しは値段が上がってきたので、去年はオリジナルのチューリップを減らした。」

業者によってかなり異なるのである。というのも、ヘルシンキから五十キロメートル郊外のキモ・サリン氏のところでは、差がはつきり出ている。奥深い雪に覆われたもみの森にあるキモの畑には、おなじみの、モンテカルロ、プロミネンス、アバといった華やかな品種と、それまでにキモが慎重に試したオリジナルの品種、バルキエーテン、ガボタ、トレ・シックス、が植えられている。「フィンランドにおいて、オリジナルのチューリップの需要は今もな

お少ない。だから私はオリジナル品種二十本パックの約五パーセントしか販売できない。独立戦争以前の方がもっと値段が高かったので残念だ。」

約二百五十万本のチューリップの販売において、八十パーセントが仲買業者へ、二十パーセントが小売店や市場取引用に直接提供している。平均卸売価格は、三月中旬まではパック二五マルク(約六十円)である。二月中旬には、大量にチューリップが出回り、格安となった。三月中旬にキモと話をした時、彼は復活祭頃価格が上昇するだろうと確信していた。キモは別際に、「今シーズンは満足している。」と言っていた。



チューリップ四季彩館
からのお知らせ

○秋期特別企画展
『～バルーンアート～日本むかし話の世界』

と き 2000年11月17日(金)から11月26日(日)

ところ チューリップ四季彩館ホール



皆さんは『日本むかし話』をいくつ覚えていますか？約3万個の風船を使って、おなじみの「桃太郎」や「かちかち山」、「猿蟹合戦」、「花咲かじいさん」の一場面を花々とともに再現します。子供と一緒に、もう一度物語を思い出してみませんか。

同 時 開 催

..... 常 設 展

『ホワイトクリスマス』

と き 11月17日(金)から12月26日(火)

ところ チューリップテラス

..... 小企画展

『球根草花の水栽培』
～土なし栽培のいろいろ～

と き 11月17日(金)から11月26日(日)

ところ 2階セミナールーム



チューリップ四季彩館
TONAMI TULIP GALLERY

(財)砺波市花と緑の財団

〒939-1381 砺波市中村100-1 ☎(0763)-33-7716 FAX(0763)-33-0090

URL <http://www.city.tonami.toyama.jp/>

2000年10月発行